

子どもの知性を磨くには

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

①家庭こそ、子どもにとって最も大事な教育の場です。親は、子どもを教育する責任があります。

親にとって子どもを教育することは義務であるとさえ言えます。

②幼児のときは幼児のときなりに、小学生のときは、小学生のときなりに、中学生は中学生、高校生は高校生なりに、子どもの発達段階にふさわしい教育を、親は家庭でなすことが義務であるとは私は考えます。

③では、どのように親は教育を子どもになすべきか。10 歳を過ぎたら、つまり小学校中学年以降は「子どもの知性を磨く」ための教育を親は家庭でしたらよいと私は考えます。では、一体、10 代の子どもの知性を磨く親の教育とは何か。みなさんと一緒に考えてみたいと思います。

2. 質の高い時間ーークオリティ・タイムーをつくり出そう

①栃木県や群馬県ちょっと足を伸ばせば、福島県、茨城県には、素晴らしい「美術館」が少なからずあります。少し遠いかも知れませんが、東京には、もっとたくさん「美術館」があります。

そうです。子どもの「知性」を磨くために、身近にある(自動車や乗り物に乗って2時間以内は「身近」だと考えて下さい。ロス・アンゼルスなど、食事や買い物をしに1～2時間車に乗るのはザラですので)「美術館」に親子で出掛けることです。ゆっくりと、3～4時間かけて、好きなだけ好きな展示品を鑑賞し、途中や見終わったところで、お茶でも飲み、「どの絵が気に入った？」などと親子の会話をする事。

②身近で開かれる、お気に入りのジャンルの「音楽会」に親子で少し早めに出掛け、パンフレットなど購入して(つまりよく「予習」して)静かに時を過ごすこと。「私は、あの曲の〇〇の部分が好きだなあ。」などと、ポツンと口にする事。

③歴史や科学の「教科書」を「手に持って」近くにある「博物館」に、親子で出掛けること。展示の説明をゆっくりと、一つずつ、丁寧に読み、興味のあるところはノートにメモをしたり、「教科書」を開いてみる事。

* ロンドンに行ったら、「大英博物館」に、世界史の教科書を手に持って、朝早くから3～4日通いつめること。

④ 子どもに読ませたい本があったら、親が予め読んでおいて、子どもが読みか終わったあとに、「どんな感じだった?」「私は〇〇のところが好きだなあ」などと、言葉をかけること。

⑤ 少し大き目の「公園」を子どもと、ゆっくり散歩をして、目に映る自然について語り合うこと。
「見てごらん、この花は〇〇とって、〇〇が原産らしいよ。」自然に対する子どもの興味、好奇心を育てること。

⑥ 先週もお話したが、新聞やTV、ラジオなどで話題になっていることを、子どもに判りやすく説明してあげること。そのことについての子どもの意見を聞くこと。

⑦ などなど。

3. おわりに

① 子どもにとって「質の高い時間」(クオリティ・タイム)とは何であるかを親が十分考えて、意識的・戦略的に「つくり出す」こと。

② 子どもに、十分リラックスする時間を与えながらも、子どもにとっての「質の高い時間」(クオリティ・タイム)をどうつくり出すか。

③ 日頃から本をよく読み、親が、親の友だちと知的な会話を行うところを見れば、子どもは、本をよく読むようになるし、知性を身につけることを知ると思います。
子どもの知性を磨くため、頑張りましょう。

* 本日の放送内容は「ユダヤ人商法」マーヴィン・トケイヤー著 加瀬英明訳
(日本経営合理化協会出版局 2000年9月19日発行 12,000円)120～129ページ「ユダヤの家庭教育」を大幅に参考にさせていただきました。